



熊野神社本殿

熊野神社は、社伝（新宮雜葉記）によれば、前九年の役で源頼義が陸奥征討におもむいたとき、武運を祈って天喜三年（一〇五五）紀州熊野から熊野堂村（現在の河東町熊野堂）に勧請鎮座したのが始まりと伝えられる。その後、後三年の役で源義家が再度陸奥征討のためこの地を訪れたとき、新宮に移すよう命じられたので、応徳二年（一〇八五）から仕事にかかり、寛治三年（一〇八九）に造営が終わったといわれている。

熊野神社長床の奥の小高い丘に建つ本殿の三社は、中央が新宮証誠殿、向かって右が本宮十二社権現殿、左が那智山飛竜権現殿で、中央の新宮証誠殿は、一間に二間の春日づくりの様式を伝える建物である。

新宮証誠殿は、屋根の千木、背面の切妻、正面の蔀戸、勾欄、それに軒を支える手鉞が、他の二社殿は二軒であるのに対し三軒であり、向拝に連なる木鼻や屋根の形にも特殊な要素が加えられ、時代による再建修築の変遷をよく示している。

なお、昭和四十五年から四十六年にかけて応急修理をおこなっている。

所在地 慶徳町新宮字熊野 熊野神社

指定年月日 昭和四十二年十二月八日